

悪魔に機会を与えない

2023年9月17日

エペソ人への手紙 4章25～27節

序：召しにふさわしい歩み（信仰者・聖徒の生活）

新生（古い人を脱ぎ捨て、新しい人を着る）

聖化（キリストの身丈まで、成長）

キリストとともに歩く

悪魔との闘い （クリスチャン生活のリアル） ⇒ 勝利 ⇒ 御国

4・25～具体的な勧め（悪魔に機会を与えないための）

真理に基づく義と聖をもって、神にかたどり造られた新しい人を着ているのだから

I. 偽りを捨て、真実を語れ

(1)偽り（＝うそ）

十戒（第九戒） 出 20・16

へつらいの唇、傲慢の舌 詩 12・3

まやかしを吹聴する偽りの証人 箴 6・19

むやみに誓いをし、果たさない マタイ 5・33～37

偽りの根源は悪魔 = 偽りの父 ヨハネ 8・44（198頁）

(2)真実

真理（聖書） ⇔ 偽り 真実 ⇔ うそ

隣人・教会の徳を建てる

根源は神（神から出ている）

(3)理由：聖徒はみな、キリストのからだの一部（連帯、一体） ロマ 12・5

偽りは兄弟間に、争い、分裂。破壊をもたらす

II. 怒っても、罪を犯すな

(1)「怒るな」「罪を犯すな」の二つの命令ではない

(2)「怒っても罪を犯すな」である

怒りがすべて悪ではない

聖なる怒り・義憤はある（禁じられていない）

例①イエスの宮きよめ ヨハネ 2・13～17

- ②バプテスマのヨハネ（バプテスマを受けようとやってきたサドカイ人・パリサイ人に対して）マタイ 3・7～12
 ③パウロの大祭司アナニアへの抗議 使徒 23・3

④パウロのガラテヤ教会の背信への警告 ガラ 1・6～9

(3)義憤ならばすべて正当化されるわけではない

度を越すと罪になる

だから、期限が定められている＝夕方・日暮れ（一日の終わり）まで
 その日その日で処理、次の日に持ち越してはならない

(4)理由①怒り

嫉妬（妬み）

争い

激昂（かんしゃく、短気）

⇒ 殺人（心の中でも）

②怒りは悪魔のつけ入る最上のチャンス

悪魔は狡猾・ずる賢い

すきあらば、と虎視眈々と狙っている

Ⅲ．結び

(1)古い人を脱ぎ捨てて新しい人を着た（着せていただいた）クリスチャンは偽りを捨てて、真実を語る（ことばが変えられる）（舌の下の思想が変えられたゆえ）
 以前は、自分が益をえるため、自分を利するためなら平気でうそをつき、それが賢さの証明であるとさえ考えて誇っていた
 神が私たちに口、舌、唇をつけられたのは

- ①神をほめたたえるため
- ②隣人を建てる真実を語るため
- ③世界に福音をあかしするため

(2)偽りは偽りの父である悪魔の特技（惑わし、だまし、間違った選択・行動へ導く）

(3)私たちの心の思い、口のことば、体の行動は記録されている（報い・審判）

(4)教会の一体性、主にある一致にとってどうなのかを問うべき

(5)怒りに乗じて、悪魔は巧妙に攻略してくる（霊的敏感さを養い、対抗する）
 逃げる

(6)怒りの処理はその日のうちに／翌日まで持ち越さない（つけ入られないため）
 睡眠時間は神の恵み、

(7)聖なる怒り、義憤は必要 ∵新しい人、神の子どもの性格
 ただし、行き過ぎると罪になることがある
 「あなたは正し過ぎてはならない」